

令和 4 年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立敷津浦学園
施設所管課・担当	福祉局障がい者施策部障がい福祉課施設グループ（担当：井口・井上）
条例上の設置目的	児童福祉法（昭和22年法律第164号）第42条第 1 号に規定される福祉型障がい児入所施設として、障がいある児童を入所させて、日常生活の指導及び独立自活に必要な知識技能の付与することを目的とする。
業務の概要	（１）福祉型障がい児入所施設の運営・管理 （２）利用児、者への個別支援計画に沿った日常生活支援 （３）短期入所事業、日中一時支援事業 （４）年齢超過者の地域移行 等
成果指標	利用者満足度／職員の資質向上に資する研修の実施
数値目標	80％以上／年 6 回以上
指定管理者名	社会福祉法人いわき学園
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月31日（5 年間）
評価対象期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	利用者満足度	職員の資質向上に資する研修の実施
数値目標	80％以上	年 6 回以上
年度実績	88.9%	9回
達成率	111.1%	○

利用状況

○ 障がい児入所施設

（令和 5 年 3 月31日現在年齢別入所状況）

（単位：名）

	0～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳～	計
男	1	2	1	0	2	8	1	15
女	1	0	1	3	4	2	0	11
計	2	2	2	3	6	10	1	26

（障がいの程度別）

	A（重度）	B 1（中度）	B 2（軽度）	計
男	4	5	6	15
女	1	3	7	11
計	5	8	13	26

（令和 4 年度入退所）

- ・ 入所 男 6 名 女 6 名
- ・ 退所 男12名 女 4 名

○ 短期入所事業（延べ利用件数）

- ・ 障がい児 406人
- ・ 障がい者 788人

○ 日中一時支援事業（延べ利用件数）

- ・ 障がい児 32人
- ・ 障がい者 390人

令和4年度 指定管理者年度評価シート

3 収支状況

(単位：円)

収入		当年度	前年度	差異 (実績－計画)	主な要因
児童福祉事業収入	実績	177,421,023	142,425,632	3,672,023	補助金事業収入の増
	計画	173,749,000	133,511,000		
障がい福祉サービス等事業収入	実績	38,466,914	78,644,371	△ 950,086	
	計画	39,417,000	81,593,000		
寄付その他	実績	5,135,130	5,496,872	△ 421,870	
	計画	5,557,000	6,437,000		
合計	実績	221,023,067	226,566,875	2,300,067	
	計画	218,723,000	221,541,000		

支出		当年度	前年度	差異 (実績－計画)	主な要因
人件費	実績	172,074,988	190,660,551	209,988	
	計画	171,865,000	191,403,000		
事業費	実績	29,024,817	37,517,907	△ 1,632,183	給食費の減
	計画	30,657,000	37,792,000		
事務費	実績	35,188,315	36,786,896	2,669,315	修繕費の増
	計画	32,519,000	37,344,000		
その他	実績	2,685,323	3,174,322	△ 599,677	
	計画	3,285,000	3,682,000		
合計	実績	238,973,443	268,139,676	647,443	
	計画	238,326,000	270,221,000		

※支出について、本部拠出金、修繕費積立金等を除く。

4 管理運営状況の評価（1次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
利用者満足度	111.1%	A	措置入所の児童が多い中で、職員に対する利用者の満足度は高いため、左記の評価とする。
職員の資質向上に資する研修の実施	○	B	-

（2）市費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
空調設備等において、定期的自動監視システムの導入により、光熱水費について節電を図った。 消耗品については、無駄をなくして再利用する意識を高めた。	B	-

（3）管理運営の履行状況

評価項目		評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上			
	施設の管理運営	B	-
	事業計画の実施状況	B	-
	施設の有効利用	A	年齢超過者の地域移行に伴い、他施設との連携に積極的に取組んだため左記の評価とする。
社会的責任・市の施策との整合性		B	-

令和4年度 指定管理者年度評価シート

5 利用者ニーズ・満足度等

(1) 調査方法

利用者ご家族及びサービス利用者に対してアンケート調査を実施

(2) 利用者ご家族27人（回答者11人） 回答率40.7%

サービス利用者27人（回答数11人） 回答率40.7%

(3) 質問項目

・利用者ご家族あて

ア 基本的な事項（入所形態、利用期間）

イ 支援内容（学園での生活、支援内容、利用者サポート、個人情報保護等）

ウ その他

・サービス利用者あて

ア 職員の対応

イ サービス内容（学園での生活、イベント、日中余暇活動、健康管理等）

ウ 環境面（衛生面等）

(4) 結果

・利用者ご家族へのアンケートで、職員の態度や雰囲気が良いと答えた方が100%。

・利用者の個々の状況に応じた専門的な支援や指導が行われていると答えた方が82%。

・利用者の個性や能力について、職員と共有できていると答えた方が100%で、職員に対する満足度は高い。
一方で、個別支援計画にかかる説明への満足度は63%となっている。こども相談センターのケースワーカーとも連携しながら、個々の状況に寄り添い、丁寧な対応が必要と考える。

・全体入所者のうち、ほとんどを措置入所が占める状態ではあるが、無回答を除いてご家族及び利用者の全体的な満足度は高いと考える。

6 外部専門家意見

・コロナ禍において、未就学児の受け入れ、年齢超過者の地域移行への取り組みは苦労が多かったと思われるが、積極的に取り組む姿勢は評価できる。

・利用者の多様性に対応するため、多角的な視点による研修の実施に努められたい。また、この問題は施設や法人単体だけではなく、行政や関係機関一丸となって取り組んでいてもらいたい。

・利用者特性の変化や多様性への対応など、職員の負担増が心配される中、メンタルヘルスへの対応も積極的に取り組んでももらいたい。

・障がい者差別解消における合理的配慮の提供に関する研修の実施にも努められたい。

7 最終評価

評価項目		評価	所見
成果指標の達成		A	アンケートの結果等で目標を上回る成果を得ている。
市費の縮減		B	コロナ禍において運営状況が厳しい中、適正な運営費縮減に努めている。
管理運営の履行状況	施設の設置目的の達成及びサービスの向上	B	重点課題であった年齢超過者の地域移行を完了させたことは高く評価できる。また利用者の特性の変化に応じた研修等も実施するなど、管理運営においても期待点に到達している。
	施設の管理運営		
	事業計画の実施状況		
	施設の有効利用		
	社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価		B	概ね事業計画通りに運営できており、総合的に評価できる。